

『れきしから学んだ水の大切さ』

朝霞市立朝霞第七小学校 3年 岡崎 佳怜

私はれきしを調べるのが好きです。ある日、小田原城に行って、小田原のれきしを調べました。すると、日本で一番さいしょにつくられた上水道が、小田原上水だと分かりました。小田原上水がつくられた当時は、お田のお長のようなせん国ぶしょうがあちこちで合せんをくり返していたけれど、小田原の町はいくさがなく平和で、栄えていました。私は、小田原が栄えていたひみつが何か考えました。すると、水道にヒントがあるのかなと思いました。水道がつくられる前は、人々は、川に水をくみに行ったり、井戸で水をくみ上げたりしていたそうです。しかし水道ができると、住んでいる所の近くまで水がとどくようになりました。そうすると、人々の生活はずい分楽になったのではないかと思います。だから小田原には、人がたくさん集まって、栄えたのかもしれないと思いました。

また、別の日に古民家へ行き、井戸水をくみ上げる体けんをしました。井戸のハンドルは、とても重くて、自分一人では全く動かせませんでした。水道がなかった時代は、とても大変だったと思います。今はふつうだけれど、じゃ口をひねったり、手を出したりするだけできれいな水が出てくるということは、とても楽で、すばらしく、水道ってさい高と思いました。新がたコロナウイルスにかからないためにも、消毒されたたっぷりのきれいな水道水は欠かせません。ところが、水道の水はいくらでも出るわけではありません。げん代の川の水は、工場や家で使われた水が流されてよごれているため、ろかしたり消毒してきれいにしないと飲めません。ということは、水道から出る水は自然に流れてくるものではなく、わざわざつくった水なので、せつやくして使わないといけないということです。

水道がない時代は、水をくむのに大変な苦勞をしたので、水をととても大事に使っていました。そのため、昔の水のせつやく方法が活かさないか調べてみました。たとえば、水がめに井戸の水をためてひしゃくですくって手をあらう方法や、お風呂に使う水を外においておき、温めて使う方法がありました。これらをまねするとすれば、ペットボトルに水を入れ、日向において温めておき、そのお湯を少しずつ流しながら使って、毎日自分の水とうをあらうことができます。昔の人々の工夫や、水を大切に思う気持ちから、今私たちがまねすること、学ぶことがあるのではないのでしょうか。

私たちは、べんりな水道ができてから、水の大切さをわすれてしまっています。れきしをふり返り、今も昔もそして未来も、水がかぎるあるしげんであることをわすれてはいけません。人々が百年先も千年先もずっとけんこうでべんりな生活を送れるように、みんなが水の大切さと水道のす晴らしさを意しきできるようになったらいいなと思います。

『大切な「命の水」』

会津若松市立一箕小学校 4年 中村 大

「百のしんりょう所より一本の用水路」

これを合言葉に日本から遠くはなれたアフガニスタンで用水路作りを続けた日本人のお医者さんがいた。

中村哲先生というお医者さんは水も病院もないこの国にくらす人たちを助けるための仕事をしていた。

水がないってどういうことだろう。

人間が生きるためにひつような食べ物を作るためには水が欠かせない。

病気を予防するための手洗い、うがいをするためにもひつようだ。何より、お風呂やせんたく料理と私たちは毎日たくさんの水を使っている。

水がないということは、このすべてができないということだ。つまり、私たちのふつうの生活ができなくなってしまうのだ。

アフガニスタンでは、たたかいが続き、水が足りなくなってしまった。そのため、のどはカラカラ。畑の野菜もかれ食べ物がなくなり、生きることが大変だった。子どもも大人も体が弱って病気になり、つぎつぎと病院にやってきたそう。

そこで、中村先生は「薬で病気を治す前に水がある」と考えて井戸をほることにしたそう。その井戸のおかげで飲み水は手に入るようになったけれど、畑の野菜にあげる水はまだまだ足りない。すると今度は、川の水を村に届ける水の通り道「用水路」作りを始めた。その用水路のおかげで畑に水が行きわたり、小麦や野菜などができるようになった。もともとさばくだったところが緑に生まれ変わり人々は生活ができるようになったのだ。

世界にはまだ安全な水を手に入れることができない人たちがたくさんいる。にごったふえいせいな水を使っている人たち、重い水を何時間もかけて運ばなければならない人たち、水道があっても一日何時間か、または週に何時間かしか水が来ない人たちもいるという。じゃ口をひねればきれいな水がいつでも出てくる日本はとてもめぐまれているということが分かった。

水は生活にひつような物であるだけでなく私たちが病気から守ってくれてもいる。日本の水道水の安全性は世界でもトップクラスなのだそう。そのおかげでコレラなど水が原因の一つとなる病気は日本ではほとんど見られない。それだけではなく、インフルエンザや新型コロナウイルスなどの予防にも、水で手洗い、うがいをするのが一番効果的だと言われている。まさに「命の水」なのだ。

中村先生はじゅうでうたれてなくなってしまった。でも、世界中で「命の水」を守るための活動は続いている。ぼくも、自分で出来る事から始めよう。安全できれいな水が使える事を当たり前と思わず、大切に使おう。そして、世界中のどこでも、じゃ口から出るきれいな水を何も気にせず飲める日が来ればいいなと思う。

『感謝の一滴』

登米市立米山中学校3年 鈴木 怜奈

私は、水道を何げなく普段から使っていますが、どのようにして届けられているのか、水道水がどのくらいの国で飲まれているのかなど分からないが多くあるということに、ふと思い当たり、そこで資料を使い調べてみました。

最初に、どのようにして水道水が届けられているのか調べてみました。ダムや湖にためられた水は取水設備から取り入れられ、取り入れられた水は導水管を通して浄水場に運ばれます。水道水はいつでも使えるよう配水池でためておき配水管を通して家庭に届けられます。ということが調べると分かってきました。小学校では実際に浄水場へ行き、水をどのようにしてきれいに行っているのかは分かりましたが、配水池でいったんためてから家庭へ運ばれていくということは調べて初めて分かりました。

次に、水道水がどのくらいの国で飲まれているのか調べてみました。世界では水道水をそのまま飲んでいる国は少ないようです。私は蛇口をひねって水を飲んでいますがそのような国が少ないということに驚きました。

私たちが生きていく上で欠かせない水ですが、今ある問題が起こっています。それは汚染です。そもそも水質汚染の原因は大きく分けて三つあります。

一つ目は、産業排水です。工場や農業などが流す産業排水。かつて水俣病やイタイイタイ病などの公害病は、産業排水に含まれる有害物質が原因ともされてきました。水質汚染が社会問題となってからは、排水処理方法や制度の改善が進み、公害病の患者は減少しつつあります。しかし汚濁物質が溜まりやすい閉鎖された水域では、水質の改善が思うように進んでおらず、大きな課題となっています。

二つ目は、生活排水です。かつては産業排水が水質汚染の主な要因でしたが、規制や対策が進んでいる現在では、生活排水がより大きな要因となっています。生活排水とは、台所、トイレ、お風呂など私たちが日常生活で使った水のことで、そのうちトイレの水を除いたものを生活雑排水といいます。私たちが一人一日に出す生活排水のうち、生活雑排水の汚れは全体の約六十七パーセントを占め特に台所の汚れが多くを占めています。汚染が進めば、生態系は破壊されて私たち人間の健康にも影響を与えてしまいます。

三つ目は、気候変動です。産業排水や生活排水に加えて近年急増している水温上昇や豪雨といった気候変動も水質汚染の原因ともいわれています。水温上昇はこれも社会問題である地球温暖化が原因であると思います。このように今ある社会問題同士でもさまざまな部分で関係しているところがあると思いました。

今私たちはきれいな水を毎日不自由なく飲めていますが、六億六千三百人もの人々が安心して飲める水が身近になく、池や川、湖、整備されていない井戸などから水を汲んでいます。その半数近くが、サハラ以南のアフリカ諸国に集中しています。多くの途上国では水汲みは子どもたちの仕事でサハラ以南のアフリカ諸国だけで三百三十人を超える子どもたちが水の重たさに耐えながら、遠い道のりを歩き続けています。疲れ果てた子どもたちには学校に通う時間も体力も残されていません。しかし生きるために汲んできた汚れた水を飲むしかありません。汲んできた水の多くには泥や細菌、動物のふん尿などが混じったとても危険な水です。毎日約八百人もの子どもが汚れた水や不衛生な環境が原因で命を落としています。自分のことに置き換えてみたら、想像するだけでも苦しくて痛くて怖くなります。そのような状況である今を、少しでも良くするために私たちはどのようなことをしていかなければならないのでしょうか。

食事や飲み物は必要な分だけつくり、飲み切れる分だけ注ぐ。また、お米のとぎ汁は植木の水やりにする。養分を含んでいるので良い肥料になります。そして、水きり袋と三角コーナーを利用して野菜の切りくずなど細かいごみを流さない。など自分たちが出来ることはたくさんあります。一人一人の意識、行動を変えることで水質汚染を防ぐことが出来ます。一人一人が自分の生活を見直し水質汚染防止に努めれば、大きな変化が可能ではないでしょうか。

特 選

小川 蒼生 おがわ あおい

「大切な 水と一緒に 暮らす日々」 会津若松市立第二中学校 3年

準特選

山下 真潤 やました まう

「水道に 思いをこめて ありがとう」 田川市立田川小学校 3年

入 選

戸梶 夢珠 とかじ ゆず

「たいせつな おいしいおみず ありがとう」 田川市立田川小学校 1年

湊 暖花 みなと はるか

「いい水は いつも努力が つまってる」 鎌ヶ谷市立五本松小学校 4年

湊 暖花 みなと はるか

「いい水は いつも努力が つまってる」 鎌ヶ谷市立五本松小学校 4年

山田 響子 やまだ きょうこ

「安全な 命の水を 未来まで」 八王子市・53才

相川 みゆき あいかわ みゆき

「毎日の 安全な水に 感謝する」 川崎市・58才

辻 孝明 つじ たかあき

「蛇口から あふれる元気 うまい水」 川堺市・67才